

第3章 北区生活交通改善プラン(令和2年策定)における取り組みと事後評価

令和2年3月の現行プラン策定後における北区の取り組み実績を評価するとともに、今後の課題を改めて確認するものです。現時点の取り組み状況は以下のとおりとなっています。(令和7年3月現在)

基本方針と施策		具体的な取り組み		取組状況(実績値)					詳細	評価及び今後の課題	
		主な施策	成果指標	単位	R2	R3	R4	R5			R6
基本方針① 公共交通を利用しにくい地域への対策を検討します											
ア	公共交通を利用しにくい地域における、利用ニーズの調査と分析を行い、各種社会実験の是非を検討します	○区内各地区の利用ニーズ調査と分析	利用ニーズ調査と分析件数	件	0					住民バスの運行を希望する自治会に対し、住民バス団体立ち上げから運行までの流れ等を説明した(いずれもニーズ調査までは至らなかった)。	【評価・今後の取り組み】 高齢化の進展を背景に、公共交通の利用ニーズは年々高まっている。地域住民の声を聞きながら、地域交通団体の立ち上げに関する相談があった際には積極的に支援していく。
		○利用ニーズを踏まえた各種社会実験の検討	社会実験の検討件数		2	1	2	1	1	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 区バス 社会実験便(復路1便増便)を検討 ⇒令和3年度本格運行化(現:通常便 復路1便) 令和4年度 エリアバス×タクの導入(長浦地区) 令和2年～令和6年度 デマンド交通(岡方地区、令和4年9月まで長浦地区含む) 社会実験継続実施 	【評価】 区バスは、各バス停留所の乗降者数を分析し、運行の効率化を図り、路線の一部を廃止、復路に1便増便した。収支率向上にも一定の効果があった。 エリアバス×タクは、地域の要望を聞きながら構築した新たな交通システムである。中学生の冬季通学手段としてスクールライナー便を設定し、持続可能な公共交通を目指している。 岡方地区デマンド交通は、社会実験として継続している。住民団体と意見交換を実施するほか、アンケートを計画するなど、地域に即した公共交通を目指している。 【課題・今後の取り組み】 岡方地区デマンド交通については、市全体の方向性のもと、地域の要望を聞きながら本格運行、持続可能な公共交通を目指す。また、エリアバス×タクについても、状況に応じて検討を行っていく。
イ	目的バスと連携し、多様な移動需要に対応します	○連携病院との定期的な情報共有と新たな連携策の検討	連携病院との打ち合わせ(1回/年)	回	各1	各1	各1	各1	各1	毎年、鉄道のダイヤ改正がある時期(3月頃)に連携病院と打ち合わせを行った。	【評価】 連携病院(豊栄病院・新潟リハビリテーション病院)の目的バスは、地域の交通として重要な役割を果たしている。連携病院との情報共有を行い、区バス・住民バス及び目的バスの利便性向上につなげていく。
		○区公共交通時刻表への相互接続情報の掲載	掲載可能な目的バス運行事業者(2者)	事業者	2	2	2	2	2	住民バスと連携病院の目的バスの接続情報を時刻表に掲載している。	

基本方針と施策	具体的な取り組み		取組状況(実績値)					詳細	評価及び今後の課題	
	主な施策	成果指標	単位	R2	R3	R4	R5			R6
基本方針② 既存の公共交通網を活かし、わかりやすく、使いやすくします										
ア	区バス・住民バスの利用実績の調査と分析	区バス・住民バスの利用実績調査・分析(毎月)	回	12	12	12	12	12	毎月の利用者数を確認するとともに、前年度比較を行った。また、停留所ごとの利用者数を分析し、運行計画の見直しにつなげた。	【評価・今後の取り組み】 新型コロナウイルスの影響などで一時落ち込んだ利用状況は回復してきているが、燃料費高騰などによる経費増大から、収支率の悪化が懸念されている。利用ニーズを的確にとらえ、運行改定等を通して、利便性の向上に努めている。
	区バス・住民バスの利用実績の調査と分析を行い、実情に即した運行計画とします	実態を踏まえた運行改定(随時)	件	2	2	1	2	2	【区バス】 ■令和2年度 北区役所新庁舎への移転に伴い、停留所の名称を変更 キャッシュレス決済を導入 ■令和3年度 令和2年度運行実績をもとに、乗降者数の少ないルートを廃止し、復路便の1便増設を行った ■令和4年度 前年度運行実績をもとに乗降者数の少ないルートを一部廃止 【住民バス(おらっのバス)】 ■令和2年度 北区役所新庁舎へ移転に伴い、停留所の名称を変更 ■令和3年度 運転経歴証明書により、運賃及び回数券販売額を半額に割引く制度を導入 ■令和5年度 利用者の少ない往路8便を廃止し、利用が見込まれる時間帯に1便増設した ■令和6年度 公共施設(北出張所、北地区コミュニティセンター)へのアクセス向上により、利用者の利便性を高めるため停留所を新設。その他運行効率化のため停留所の廃止及び移設。 【エリアバス×タク】 ■令和5年度 本格運行へ移行 スクールライナー便のルート変更、時刻表の変更の改定を行った ■令和6年度 通常運行便のルート変更	【評価】 区バスでは、運行実績をもとに経費削減、持続可能な交通となるよう改定を行った。 住民バスでは、運営主体(はまなす「地域交通」研究会)への支援及び協働により、新たな割引制度の導入や利便性を考慮した運行改定を行った。 長浦地区では、地域課題であった、中学生の冬季通学手段の確保のために、新たなシステム(エリアバス×タク)を構築した。 【課題・今後の取り組み】 燃料費高騰などにより運行経費が増加し、収支率悪化の要因になっている。収支率を向上させ、持続可能な交通になるよう実績の調査・分析をしながら運行改定を行っていく。
イ	「わかりやすく、見やすく」を目指し、区公共交通についての情報発信を行います	時刻表及び乗り方案内発行(1回/年)	回	2	1	1	1	1	【時刻表】 毎年4月に発行。区バス・おらっのバス(住民バス)の沿線に住んでいる世帯に配付した。 【乗り方案内】 令和2年12月に区バス・おらっのバス(住民バス)についてそれぞれチラシを作製。沿線に住んでいる世帯に配布した。	【評価】 時刻表に鉄道や豊栄病院、新潟リハビリテーション病院との乗換接続の情報を記載するなど、利用を促す工夫をした。 また、乗り方案内のチラシはデザインを刷新し、初めての方でも簡単に利用できることや感染症対策についてPRするなど、新規利用者の獲得に努めた。 【課題・今後の取り組み】 多くの区民から認知され、活用してもらえよう引き続き広報活動に積極的に取り組む。
	○各種広報媒体(区だより・ホームページ等)による定期的情報発信	区役所だより等へPR記事掲載(5回/年)		5	5	6	7	5	区バス・住民バスの使い方紹介(1面) 子どもワンコインバスの紹介 シルバーチケット導入周知 「にいがたバス乗換案内サイト」紹介 など	【評価】 区だよりやホームページなどを活用し、区の公共交通の利用促進に向けて取り組んだ。 【課題・今後の取り組み】 利用促進に向け積極的な広報活動に取り組んでいく。
	○豊栄駅・新崎駅案内看板、連携病院案内ラックの維持管理	案内看板、案内ラックの維持管理(随時)		3	3	3	3	3	案内ラックへの利用案内の補充を随時実施した。	【評価・今後の取り組み】 豊栄駅・新崎駅、連携病院の案内看板・案内ラックは、区バス・住民バスを利用する人との接点として非常に有効である。これらの設備を有効活用し、区の公共交通の情報を分かりやすく発信していく。

基本方針と施策	具体的な取り組み		取組状況(実績値)					詳細	評価及び今後の課題	
	主な施策	成果指標	単位	R2	R3	R4	R5			R6
基本方針③ 持続可能な公共交通を地域とともに考えます										
ア 住民バス団体等や地域コミュニティと持続可能な公共交通を検討します	○住民バス団体等との意見交換、情報共有の継続と協働の推進	区バス運行事業者、住民バス団体との意見交換（2回/年）	回	5	2	2	2	2	運行改定等がある場合は、区バス運行事業者、住民バス団体と意見交換会を行った。年に1回以上意見交換の場を持ち、協働による持続可能な公共交通を目指し取り組んだ。	【評価】 新型コロナウイルスの感染拡大など、利用状況が低水準で推移した期間であったが、意見交換を行いながら、協働で公共交通の運営に努めた。 【今後の取り組み】 公共交通の効率的な運行と利便性の向上にむけ、引き続き運行事業者、住民バス団体と情報共有を図っていく。
	○地域コミュニティとの意見交換、情報共有	地域コミュニティとの意見交換（随時）		2	2	3	2	5	デマンド交通について、岡方地区コミュニティ委員会と毎年意見交換を行い、持続可能な公共交通を目指し、改善点などについて話し合った。 長浦地区では、地域課題であった光晴中学校冬季通学手段の確保のため、令和4年度より新たな交通システムであるエリアバス×タクを導入し、随時意見交換を行いながら、利便性の向上に努めている。	【評価】 岡方地区デマンド交通については、社会実験から本格運行に移行するため、地域と話し合いを重ね、令和6年度はアンケート項目作成を行い、令和7年度以降ニーズ調査等を行い地域に即した公共交通を検討していく。 長浦地区は、新たな公共交通システムに移行し、軌道にのせるために随時意見交換を重ねながら利便性の向上を目指し取り組んでいる。 【課題・今後の取り組み】 岡方地区については、地域の特性に合わせた持続可能な公共交通となるよう地域や運行事業者と連携をとりながら、本格運行に向け検討していく。 長浦地区では、エリアバス×タクの利便性の向上、利用者増を目指し、地域や運行事業者と連携し引き続き取り組んでいく。
	○住民バス団体の立ち上げ支援	新規住民バス団体の立ち上げ支援（随時）	件	0	0	1	1	0	太田地域で、「高齢者等の移動外出手段を考える検討委員会」を設置、令和3年度から検討を続け、福祉施設から送迎用車両を無償借用し、ボランティアの運転により、高齢者等の外出支援（買い物支援）の試行運行を令和5年度に開始した。北区は、令和4年度から検討委員会に参加し、情報提供等の支援を行った。令和6年4月からは本格運行となり、ボランティア募集やスタッフの確保などに引き続き取り組んでいる。	【評価】 太田地域の活動は、高齢化が進む状況下で、地域に即した地域公共交通を実践した好事例である。 【課題・今後の取り組み】 他の地区にも、太田地域の取り組みを紹介するなどし、協働により地域に即した地域公共交通の実現に取り組んでいく。

基本方針と施策		具体的な取り組み		取組状況(実績値)						詳細	評価及び今後の課題
		主な施策	成果指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6		
	区内交通関係者と情報共有及び意見交換を実施します	○北区地域公共交通検討会議の定期的な開催、区生活交通改善プランの進捗確認	会議開催（1回/年）	回	1	1	1	1	1	毎年、年度末に開催し、進捗状況報告を行った。	<p>【評価】</p> <p>現行の北区生活交通改善プランは計画通りに進捗している。同プランの目的である「地域の実情に即した、誰もがわかりやすく、利用しやすい持続可能な公共交通ネットワークの形成」に向けて、積極的に取り組めた。</p> <p>【課題・今後の取り組み】</p> <p>「地域の実情に即した、誰もがわかりやすく、利用しやすい持続可能な公共交通ネットワークの形成」は、次期プランにおいても重要事項となる。引き続き取り組んでいく。</p>
イ	区内交通関係者と情報共有及び意見交換を実施します	○北区地域公共交通に関する意見交換会の実施	会議開催（運行改定時）	回	1	1	1	3	1	<p>■令和2年度 令和3年1月に開催 【区バス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・停留所の変更 ・キャッシュレス決済の導入 ・社会実験便（復路1便増便）を検討 <p>⇒令和3年本格運行（現：通常便 復路1便） 【住民バス（おらってのバス）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・停留所の変更 ・運転経歴証明書提示で半額（現金、回数券） <p>■令和3年度 令和3年12月に開催 【区バス】</p> <p>令和4年4月に区バス運行改定（ルート変更・一部廃止） ■令和4年度 令和4年12月に開催 【おらってのバス（住民バス）】</p> <p>運行改定 【エリアバス×タク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリアバス×タクの運行開始とデマンド交通運行計画変更を報告 <p>■令和5年度 令和5年5月（書面）・10月、令和6年3月開催 エリアバス×タク運行改定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本格運行移行報告 ・スクールライナー便の運行改定 ・一般運行便の運行改定 <p>■令和6年度 令和6年12月に書面開催 【おらってのバス（住民バス）】</p> <p>運行改定</p>	<p>【評価】</p> <p>左記のとおり、必要に応じて適切に開催した。</p>